



かわさきコロナ情報

～これからのコロナ対策のポイント等～

令和2年9月30日（水）

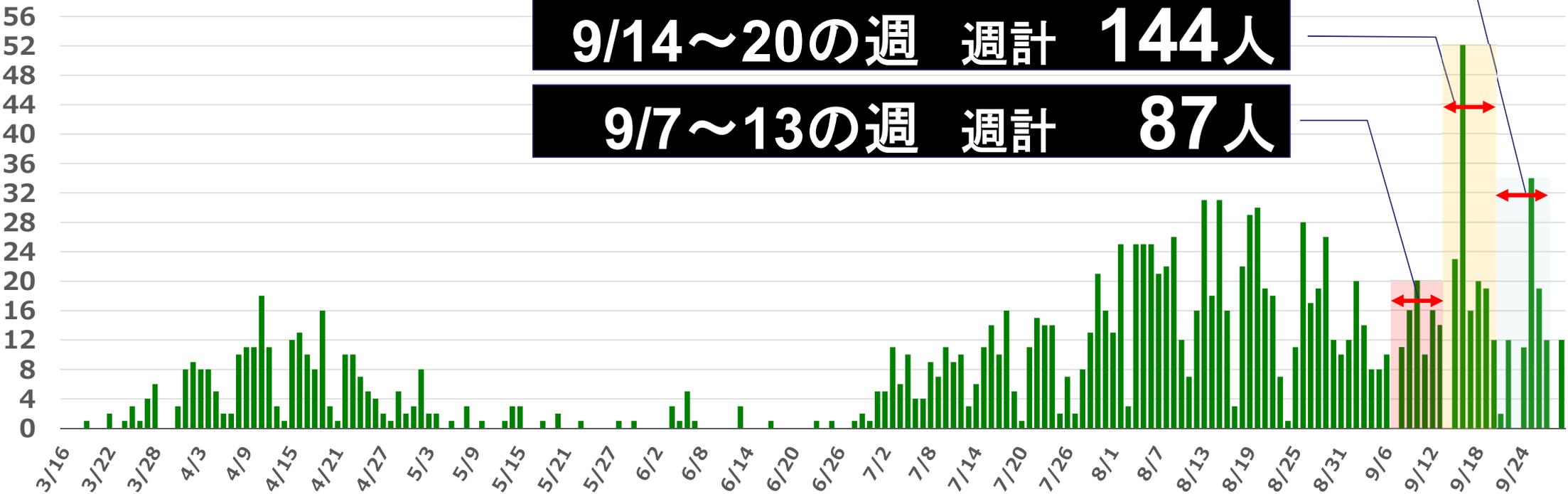
新型コロナウイルス感染症 陽性者発生状況

陽性者数

9/21~27の週 週計 88人

9/14~20の週 週計 144人

9/7~13の週 週計 87人



9/29現在

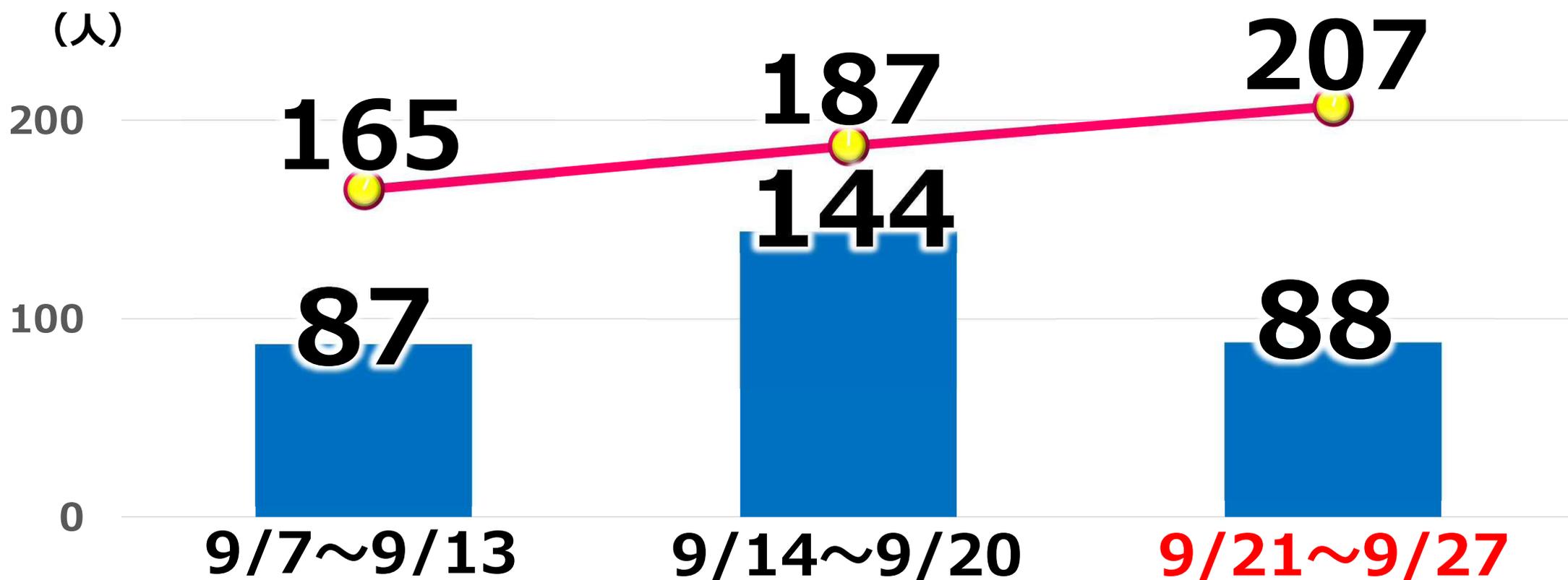
累計 **1,542人** **12人** の陽性者が報告

直近 1 週間の新規陽性者数 (棒グラフ)

と

全療養者数 (入院中、宿泊療養及び自宅療養者合計)

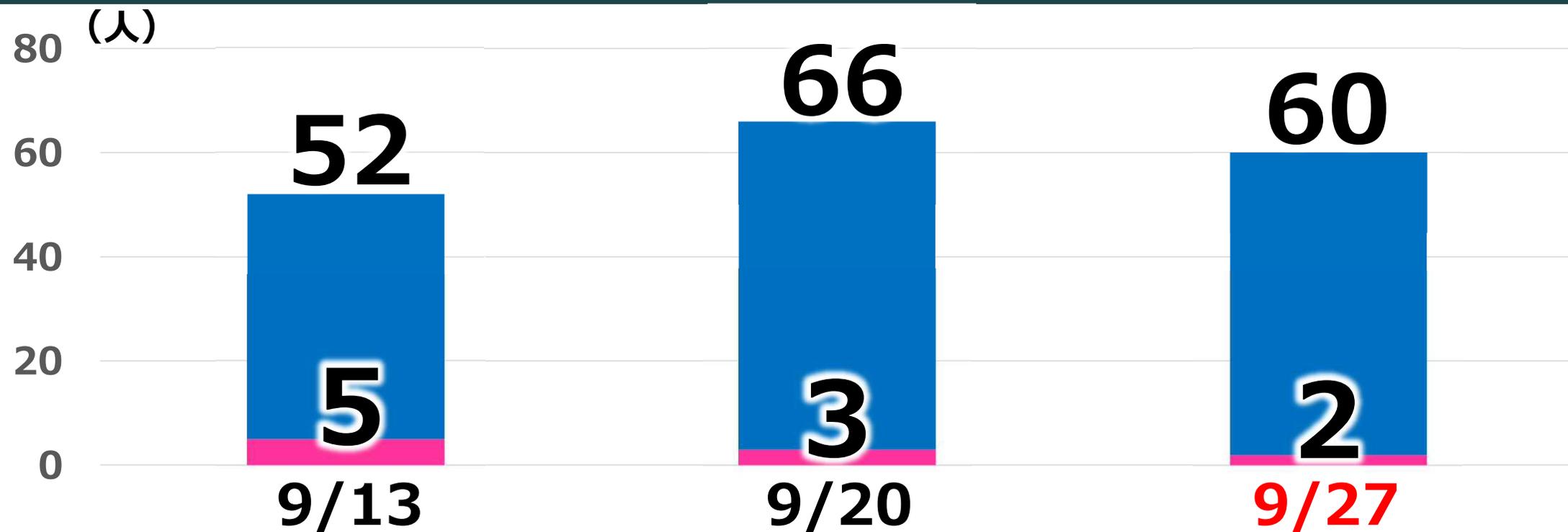
(疑似症患者は含まない) (折れ線グラフ)※9/27 (日) 現在の報告数



入院中の患者数 (疑似症者を含む) (棒グラフ)

と

入院中の患者のうち重症者数 (疑似症者を含む) (棒グラフ)



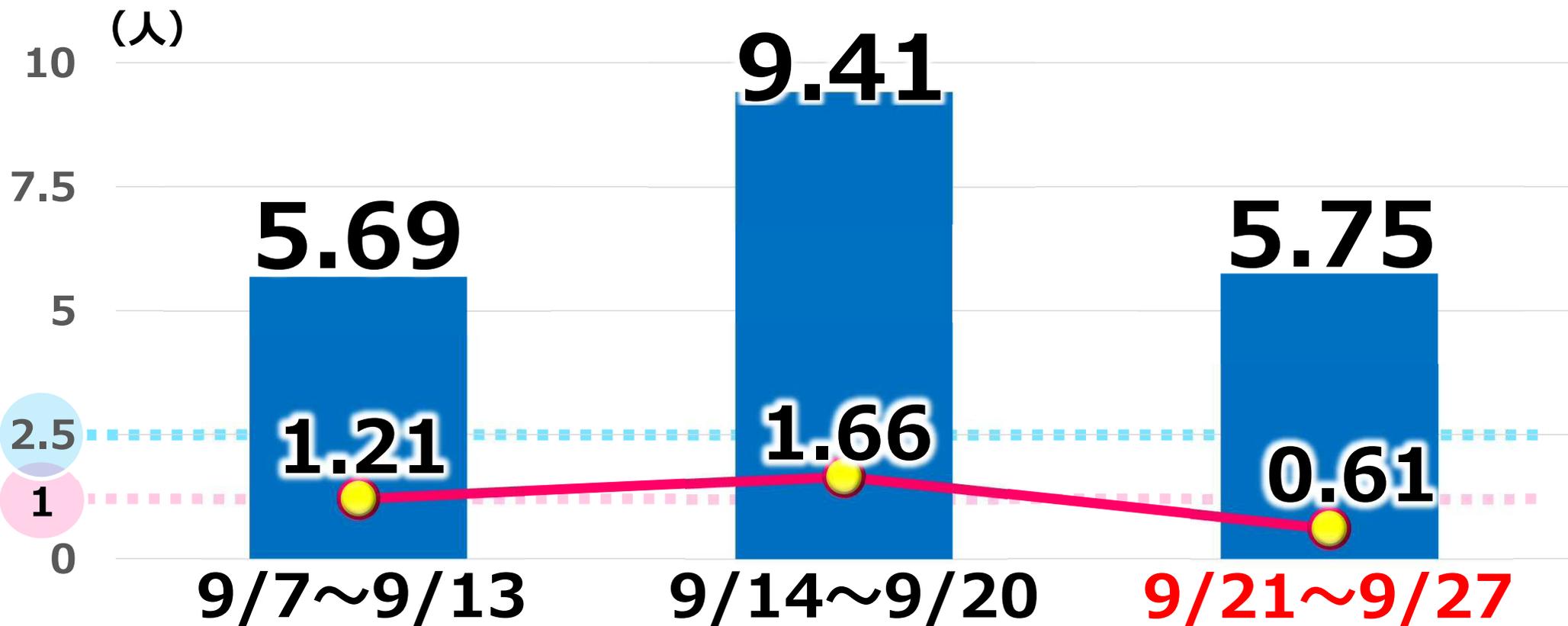
感染症患者受入れのための病床を市内に **270床** 確保

(うち、重症者用として陽性者分 **28床**、陽性者分とは別に疑似症者分を確保)

直近1週間の人口10万人当たりの新規陽性者数 (棒グラフ/左軸)

と

週当たりの陽性者増加比 (当該週の陽性者数/前週の陽性者数) (折れ線グラフ/右軸)

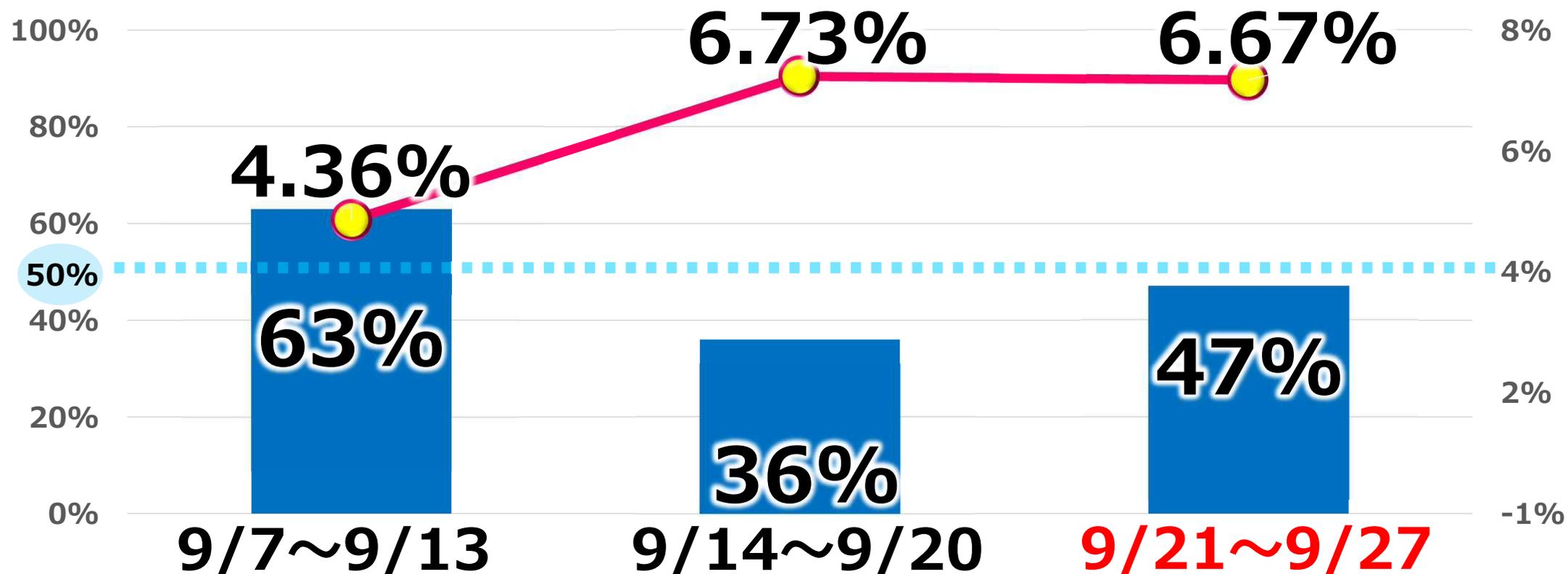


- は、国の専門家会議「緊急事態措置の解除の考え方」で示された目安基準
- は、神奈川県「神奈川警戒アラート指標」による基準

直近 1 週間の感染経路不明者の割合 (棒グラフ/左軸)

と

直近 1 週間の陽性率 (陽性者数 / 検査実施人数) ※ (折れ線グラフ/右軸)

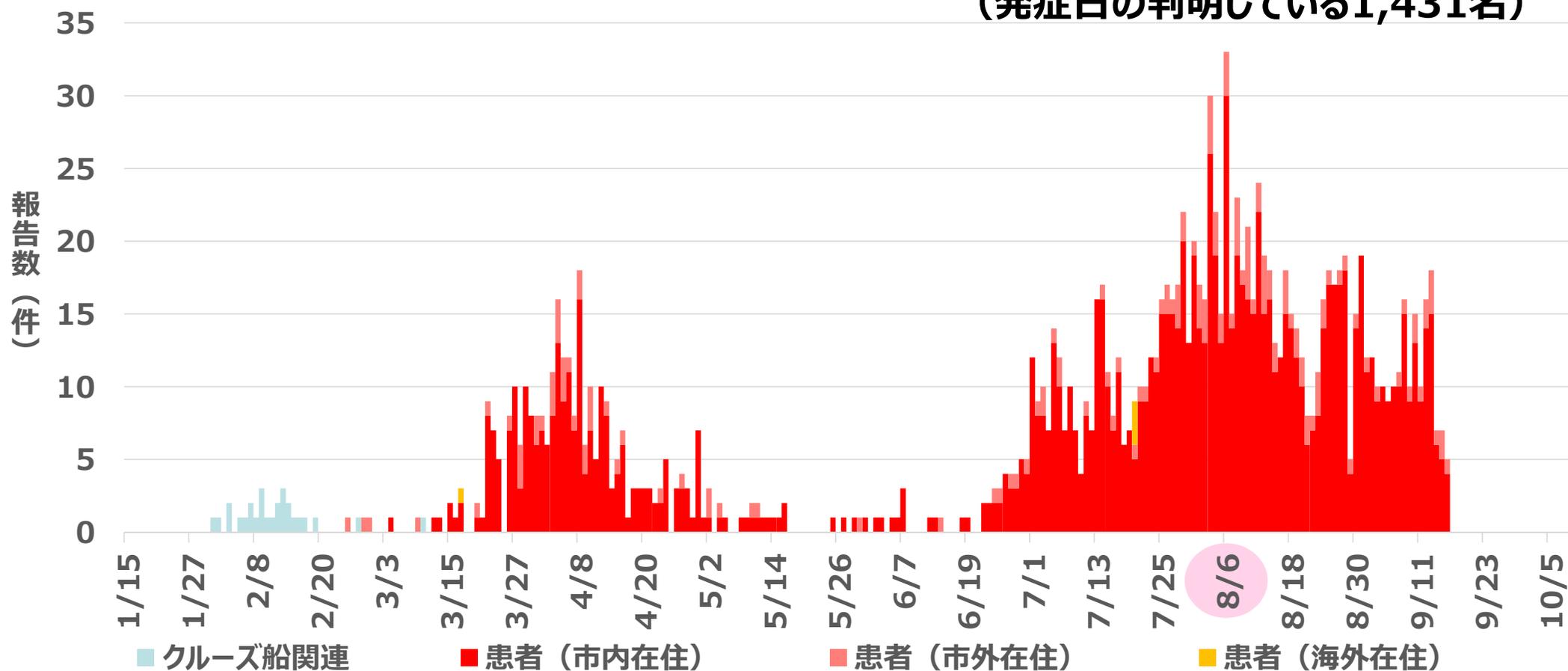


※健康安全研究所及び民間検査機関による検査実績から算出 (本市発表以外陽性者も含む)

..... は、神奈川県「神奈川再警戒モニタリング指標」による基準を準用

新型コロナウイルス感染症 陽性者発生状況（発症日別）

（発症日の判明している1,431名）



新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況



感染症の発生状況に関する評価 (川崎市健康安全研究所 岡部所長)

～ 9/21～9/27のモニタリング状況より ～

新規陽性者数は88人（前々週87人、前週144人）と、再び前々週のレベルに戻っています。

市内医療機関のクラスター発生を受け増加した先週から、元に戻ってきたといえますが、全体的に停滞気味の状態が続いており、注意は必要です。

感染症の発生状況に関する評価 (川崎市健康安全研究所 岡部所長)

暑かった今年の夏もいつの間にか去り、まもなく10月。インフルエンザワクチン接種の時期が近づいてきました。今シーズンは成人約6200万人分、先シーズンの使用量の約12%増加の見込みとなっています。

感染症の発生状況に関する評価

(川崎市健康安全研究所 岡部所長)

10月に入って全生産量が一気に医療機関に届くわけではないので、インフルエンザにかかると重症化しやすい方（高齢者）に優先的にワクチン接種（定期接種）を受けていただくようになりました。

感染症の発生状況に関する評価 (川崎市健康安全研究所 岡部所長)

任意接種のその他の方は、もう少し後に、と少し時差が設けられたのが今シーズンのインフルエンザワクチン接種のいつもと違うところです。

インフルエンザワクチンはコロナ感染症の予防には結びつきませんが、インフルエンザとコロナ感染症のダブルパンチを防ぐことには役立ちそうです。

感染症の発生状況に関する評価 (川崎市健康安全研究所 岡部所長)

新型コロナウイルス感染症への注意は、インフルエンザの予防にもつながります。今シーズンは特に「3密」を避ける、手指消毒を行う、人と人の距離が狭くなっている時はマスクをつける、などを心がけることをお勧めします。

インフルエンザ流行期を迎えるにあたって

コロナ・インフルの

同時流行の可能性

コロナ・インフルの同時流行の場合

- ・症状の違いは？
- ・併発はありうるの？
- ・症状が出たらどうする？

新型コロナウイルス感染症 ワクチン開発について

コロナワクチンの開発進捗状況(国内)【主なもの】



開発者	ワクチンの種類	取組状況	目標 (時期は開発者からの聞き取り)
①塩野義 感染研/UMNファーマ	組換えタンパクワクチン	○動物を用いた有効性評価を実施中	最短で 2020年内 の 臨床試験開始 の意向
②第一三共 東大医科研	mRNAワクチン	○動物を用いた新型コロナウイルスに対する抗体価の上昇を確認	最短で 2021年3月 から 臨床試験開始 の意向
③アンジェス 阪大/タカラバイオ	DNAワクチン	○第1/2相試験を開始済み	
④KMバイオロジクス 東大医科研/感染研/ 基盤研	不活化ワクチン	○動物を用いた有効性評価を実施中	最短で 2020年11月 から 臨床試験開始 の意向
⑤IDファーマ 感染研	ウイルスベクターワクチン	○動物を用いた有効性評価を実施中	最短で 2021年3月 から 臨床試験開始 の意向

コロナワクチンに関する状況(海外開発)【国内供給例】

開発者	ワクチンの種類	取組状況	日本国内への供給見通し
ファイザー社 (米)	mRNAワクチン	2020年7月に3万人規模での第2/3相試験を開始。	ワクチン開発に成功した場合、日本に 2021年6月末までに1.2億回分を供給 する基本合意
アストラゼネカ社 オックスフォード大 (英)	ウイルスベクターワクチン	第1相試験完了、英で第2/3相試験を開始。2020年夏に米で第3相試験(3万人規模)を開始予定。	ワクチン開発に成功した場合、日本に 1.2億回分、うち3000万回分は2021年3月までに供給 する基本合意
ノババックス社 (米)	組換えタンパクワクチン	第1/2相試験が豪で進捗。2020年秋より3万人規模での第3相試験を(おそらく米で)開始予定。	タケダが原薬から製造し販売予定。タケダが 1年間で2.5億回分を超える生産能力を構築 すると発表

出典：新型コロナウイルス感染症対策分科会(第6回)資料に基づき作成

新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種の考え方(国)

● 接種目的

- 新型コロナウイルス感染症による死亡者や重症者の発生をできる限り減らし、結果として新型コロナウイルス感染症のまん延の防止を図る。

● ワクチン確保

- 国は、多くの国民へのワクチン接種により、生命・健康を損なうリスクの軽減や医療への負荷の軽減、更には社会経済の安定につながることを期待されることから、令和3年前半までに全国民に提供できる数量を確保することを目指す。
- このため、現在開発が進められているワクチン候補のうち、臨床試験の進捗状況等を踏まえ、安全性や有効性、日本での供給可能性等が見込まれるものについては、国内産、国外産の別を問わず、全体として必要数量について、供給契約の締結を順次進める。

新型コロナウイルスワクチン接種の考え方(国)



● 接種順位

- (1) 当面、確保できるワクチン量に限りがあり、供給も順次行われる見通しであることから、
- **新型コロナウイルス感染症患者（疑い患者を含む。）に直接医療を提供する施設の医療従事者等（患者の搬送に携わる救急隊員及び積極的な疫学調査等の業務に携わる保健師等を含む。）**
 - **高齢者及び基礎疾患を有する者**
を接種順位の上位に位置付けて接種する。今後、具体的な範囲等を検討する。
- (2) **高齢者及び基礎疾患を有する者や障害を有する者が集団で居住する施設等で従事する者**の接種順位について、業務やワクチンの特性等を踏まえ、検討する。
- (3) さらに、**妊婦**の接種順位について、国内外の科学的知見等を踏まえ、検討する。

ワクチン・治療薬開発と 川崎市との関連

ワクチン・治療薬開発と川崎市との関連



ペプチドリーム(株)は、2017年に東京大学の研究室の一角から川崎キングスカイフロントに移転してきた大学発ベンチャー。

新型コロナウイルス治療薬においては、米・メルク社との共同研究開発をスタートし、**2021年の治験入り**を目指している。



川崎キングスカイフロントの中核施設「**ナノ医療イノベーションセンター (iCONM)**」では、**新型コロナウイルスのワクチン開発**に向け、東京都医学総合研究所 (TMIMS) と急ピッチで共同研究を進めており、川崎発のワクチンに期待が高まる。

